

## 2010年度 自立援助ホームこどもの家 事業計画

### = 子どもの人権を守り自立を支援する =

私たちはキリスト教の精神に基づき、今、最も援助を必要としている子どもたちと共に歩む決心をし、この事業を継続している。表題である子どもの人権を守り自立を支援するために以下の目標を掲げ、職員一丸となって邁進するものである。

#### 1. 恵まれた環境の活用

施設は、敷地約50万㎡の広大なデンマーク牧場の一端に位置している。四季折々の豊かな自然に囲まれ、牛や羊、馬、山羊、鶏、などの家畜をはじめ、様々な生き物が身近に暮らす日々である。さらに食べ物を作り育てる環境の中での生活は、「自然への畏敬」の心を育むと同時に、次代を担う子どもたちに私たちが最も伝えていきたいテーマである「食」「命」「祈り」「感謝」を日常生活の中で体得することが出来る生活でもある。「生きる力」を取り戻し、育む環境が整えられているこの場を、職員と子どもたちが共に力を合わせて守り、大いに活用していきたい。

#### 2. 精神科診療所「こひつじ診療所」との連携

身近にこひつじ診療所があるために、こどもの家へ入所している被虐待児をはじめ、様々な課題を持った子どもたちが気軽に受診できるようになった。(2010年3月現在4割の児童が通院中)医学的診断と援助のもとに、子どもたちとの質の高い援助を目指したい。

#### 3. 児童養護施設まきばの家との連携

法人が、児童養護施設と自立援助ホーム両方の施設を運営することで、それぞれの施設の課題がより明確になり、さらに弱さを互いに補い合う努力が各施設を成長させ、結果的に入所児のケアの充実につながると考える。従って、この連携をより確かなものにしていくように努める。

職員研修についても、まきばの家と合同で進めていく。

#### 4. 関係機関との協力体制の確立

##### 児童相談所との連携

施設は、児童相談所との良好な連携のもとにすすめられてこそ充実した成果を生み出すことができると考える。児童福祉の最前線を担う仲間として、特に児童相談所との相互理解を果たしていく。

就業支援事業所「しあんくれーる」との連携

就業援助は、自立援助ホームの大きな課題である。就労への動機付け、職場探し、履歴書の作成等々寮生が仕事に就く前にはいくつもの難関がある。

2009 年度より始まった就業支援事業所「しあんくれーる」との連携に努め、退所後の様子など職場関係者との信頼関係に基づいた情報の共有に努める。

#### 5 . リービングケア、アフターケアの充実

こどもの家を退寮した後は、一人暮らしをするものが圧倒的に多いため、ゴミの出し方、口座の作り方、送金の方法、生活費の管理、休日の過ごし方等々生活の細部にわたり、具体的な助言や援助（リービングケア）が必要な場合が多い。また、自立援助ホームにおいては、アフターケアが重要な仕事になる。就業支援事業所「しあんくれーる」との連携に努め、退所後も子どもたちを見守ることが出来る体制作りを目指す。

#### 6 . その他

10 月に全国自立援助ホーム協議会静岡大会が開催される。参加者 150 名規模で浜松市内のホテルが会場となる予定である。現地実行委員長(松田)として、静岡県、静岡県児童養護施設協議会、各児童相談所等々、行政や民間の協力を得ながら成功させたい。

以上